

去年は来たけど、モグラや鳥の話もしたから、また機会があれば読み返してね。

田畑だけではない獣害

獣害対策っていうと、たいていの人は田畑の農作物被害を思い浮かべるでしょ。

でも、通学路でクマ(アツ、これは鳥根の話、大崎にはクマいなか)目撃とか、校庭にイノシシの一家が来るって相談結構増えてきた。

中国地方のある市の獣害担当者のSさんから「校庭にサルがムレが出る、どうしたらいいの？」って相談があった。

サルって視力的には人間と同じ、夜は見えない。

だから昼間に行動するってことは児童の人身被害も心配。

で、まずとっさの時に児童守れるのは先生しかない。

一刻を争う。

すぐSさんと学校に走った。

校長先生、教頭先生はとっても真剣。さっそくサルのムレが通るといふ校庭に出ると校庭の端っこ、鉄棒とか砂場の向こうにカキ、ユズ、ビワ、モモ、ウメが数本ずつ。白地に黒く樹種が書かれた札が幹

にかかっている。カキとユズはたわわに実って色づいていた。

「原因はこれですね、何もしなかったら子供たちがいても出てくるようになります」

果実は全部採って下さい。それから、子供たちにはサルが来ても騒がず、決して走らないで教室に戻るように周知徹底してください。

先生がたはとにかく連絡とりあって出れる先生がホウキでも傘でもなんでもいいから振り回せるものをもって駆けつけて子供とサルの間に割って入り、自分が先頭にたって追い払って下さい。

小型のロケット花火発射装置つくり方教えますから、職員室に常備して使い方も練習してください。

後日校長先生からSさんを通じてお礼と報告があり、「勉強しておいてよかった、すぐに果実は収穫し、職員会議でみんながサルが来た時のやるべきことを伝えた、一度サルは来たけど手空きの職員全員で追い払ったら来なくなった」とのこと、ヤレヤレ。

他にもある獣害あれこれ

あのね、マダニ被害感染症でなくなる方、年間に何人かいるんだけど、必ずしもキノコ採りや山菜採りで山に分け入ってマダニに付かれてしまうわけではない。

むしろ、庭の草むしりしていて、とか家の裏山にタケノコ堀に行つてやられてる。

植木が手入れ不足で繁茂してる庭とか、間引きしてない竹林なんかは平気でイノシシやタヌキが民家に近づくでしょ。

こういうのは健康被害。

アツそれから愛犬の毛がどんどん抜けて弱って死に至ることもある、タヌキが持つてる疥癬病(小さいマダニ)も多いから。

あと、意外と知られてないのがイチヨウ。

ギンナンはタヌキ、イノシシ、クマの好物。

近所のじいちゃんが散歩途中でイチヨウ並木でギンナン食つたイノシシ一家と鉢合わせして「シッコちびりそうになった！」って。

もし、漏れてたら衛生被害かしら。

次回は動物の安心のお話するね。



講師紹介 **井上 雅央 氏**

1949年、奈良県出身。

愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士(農学)。

元農研機構 近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。

退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。

著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハダニ』『女性がすれはずんずん進む獣害対策』(いずれも農文協)など多数。

